

海外ボランティアが副知事に帰国報告をしました！

令和5年1月19日（木）、独立行政法人国際協力機構（JICA）のシニア海外協力隊として南米のコロンビア共和国に派遣されていた山田 進一郎（やまだ しんいちろう）さんが帰国され、中村副知事への帰国報告のために県庁を訪問されました。

山田さんは令和4年6月末から12月までの約半年間、南米のコロンビアに派遣されました。

山田さんは、平成30年8月から2年間の予定でコロンビアに派遣されていましたが、1年半を過ぎたころにコロナ禍の影響で緊急帰国しましたが、その後再度コロンビアに派遣されました。

コロンビアでは「数学教育」という職種で、国立職業訓練庁カルダス地域局に配属されました。

現地の教員の授業を視察したり、教員向けの授業のワークショップを開いたり、生徒が数学に興味を持てるような教材の作成方法などの支援を行いました。

また、現地の職業訓練学校は17歳から50歳以上の方まで幅広い年代の方が通って、技術を身に付けて職に就けるようにしているそうです。

コロンビアは、英語と数学が苦手な人が多く、教員自身も数学に対して苦手意識があるそうです。まずは先生たちに、数学は楽しいと生徒が思える教え方を伝えたり、生徒達には、数学を取り入れたゲームをして、楽しんで学べるような授業が行われたそうです。



現地の民族衣装のポンチョを着て帰国報告にお越しいただきました。

コロンビアに再度派遣されることが決まる前から、もう一度コロンビアへの派遣を希望していた山田さんは、現地で話されるスペイン語を帰国中にも猛勉強されたそうです。そのため、派遣中には言葉の問題もほとんどなかったそうです。

また滞在中、音楽が好きな山田さんは、現地の方々とサルサのバンドを組んで、楽器を演奏するなど余暇も楽しまれたそうです。



コロンビアでは約6割の方が海外で仕事をされるようで、海外に出るという選択肢が子供たちの中に普通にあるそうです。山田さんは、コロンビアの様子を見て、日本の子供達にもどんどん海外に目を向けて、文化や生活の違いを知ってほしいと思われたそうです。海外で仕事をしないまでも、海外と日本の文化や生活の違いの知識や情報を増やして、自分の人生の選択肢の幅を広げてほしいと話されました。

中村副知事は、「コロンビアの教員の方や生徒の方に、熱意をもって数学を楽しく学んでほしいと活動されていた様子がとても伝わりました。現地では気候や文化の違いもあり、ご苦労も多かったと思いますが、活動中の楽しかった様子なども聞くことができ安心しました。今後は現地での貴重な体験をぜひ福井の教育現場の発展にも役立てていただけたらと期待します。」と話されました。



中村副知事（写真左）と山田さん（写真